

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	臭気に関する学会環境基準検討小委員会		主 査 名：光田 恵 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：羽山広文
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本建築学会環境基準室内の臭気に関する対策・維持管理規準・同解説 (AIJES-A003-2005) の改定について検討 ・ 改定内容に関するシンポジウムの開催 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：光田 恵 (大同大学)、幹事：竹村明久 (摂南大学)、河野仁志 (朝日工業社) 委員：板倉朋世 (獨協医科大学)、岩下 剛 (東京都市大学)、木村 洋 (長谷工コーポレーション)、棚村壽三 (大同大学)、田中利夫 (ダイキン工業)、檜崎正也 (大阪大学)、平石年弘 (明石高専)、岩橋尊嗣 (大同大学)、山中俊夫 (大阪大学)、吉栄康城 (新コスモス電機)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2017 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. シンポジウム「臭気規準をどう考えるべきか？日本建築学会臭気規準の改定案について」 (資料名) 同上 参加者数 71 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 改定すべき点を抽出した。 2. 改定原稿執筆者を選定し、原稿を作成した。 3. 改定内容に関するシンポジウムを開催した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. シンポジウムでの議論を踏まえ、改定原稿を完成させることが課題である。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>AIJES-A003-2005 改訂版の原稿案について小委員会で検討し、さらに加筆修正を行った。2月16日に、改定内容を基にしたシンポジウム「臭気規準をどう考えるべきか？日本建築学会臭気規準の改定案について」を開催し、小委員会で検討してきた内容を公表する予定である。参加申込み者数は2月7日現在、80名である。計画通り、日本建築学会環境基準室内の臭気に関する対策・維持管理規準・同解説(AIJES-A003-2005)の改定について、小委員会で検討し、改定原稿案を作成した。また、改定内容に関するシンポジウムを今年度中に開催することから、総合評価をAとした。今後は、シンポジウムでの意見を取りまとめ、改定案を完成させる予定である。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。